



日 本 体 育 大 学 同 窓 会 誌

日體人

125周年記念特別号

125anniversary message 2

同窓会副会長からの学生への
メッセージ..... 3

日本体育大学 創立125周年記念
式典・祝賀会..... 6

リオデジャネイロオリンピック2016
日体大関係者の出場選手と成績・種目... 8

熊本地震について/支部同窓会活動に
ついて..... 9

創立125周年慶祝イベント 10

NITTAI-JIN
2016 autumn

Vol. 5

125 anniversary message



日本体育大学同窓会
会長 瀧澤 康二
(昭和40年卒)

「燦たる母校」、世界にはばたけ!

同窓生の皆さん、私たちが愛してやまない母校、日本体育大学が創立125周年を迎えました。この佳節を皆さんと共に慶び、お祝い申し上げたく存じます。

私たち同窓生にとって母校は心のふるさとです。また、心の支えでもあります。その母校は幾多の困難を乗り越え、今、燦然と輝いています。創立以来、長い年月を経て今日を迎えるまでご尽力を賜った多くの関係各位に同窓会を代表してあらためて深甚なる敬意と感謝の意を表します。

70数年前、無念にも学徒動員で戦火に散った多くの先輩諸氏を偲ぶとき、平和の有り難さを改めて実感するものです。同じ釜の飯を食い、そして今、天国で眠っておられるすべての御霊に対し、ここに謹んで立派になった母校の現状をご報告申し上げ、深く感謝の意を表しご冥福をお祈り申し上げます。

オリンピック運動とほぼ同じ道を歩んできた母校は、「団結和協」の魂に支えられて今日を迎えています。母校の母体であります学校法人日本体育大学は、4年前に「ワン・ファミリー化」の重要性を訴えました。私は、この言葉は「団結和協」に通ずるものであり、同時に「平和」を意味するものと捉えています。この理念は、スポーツを通して世界平和に寄与しようとするオリンピック運動とも符合します。「ワン・ファミリー化」に加え、「国際化」、「選手強化」、そして「地域・社会貢献」を標榜する母校の更なる進化、発展を祈ってやみません。燦たる母校、世界にはばたけ!



学校法人日本体育大学
理事長 松浪 健四郎
(昭和45年卒)

平和を希求し、未来に向かって前進する

平和ほど尊いものはない。だが、その平和を願うだけでは、平和はやって来ない。

日体大のミッションには、「スポーツの力を基軸に、国際平和の実現に寄与する」とあり、現在の日体大はそのために活動中である。大きな社会的使命を掲げるだけでなく、実際、実践する大学であらねばならない。

理事会の提唱する「国際化」に則って、朝鮮民主主義人民共和国とのスポーツ交流、発展途上国からの留学生受入れ、JICA（国際協力機構）との提携による青年海外協力隊員の派遣等、日体大は積極的に国際平和の礎となるプログラムをこなしている。

東京・世田谷キャンパスに建つ学徒動員の犠牲者のための慰霊碑は、鎮魂目的とはいえ、私どもに「平和を希求する大学たれ」と教えてくれる。毎日、碑に生花を供えさせていただいているが、日体大の姿勢を明示する証である。

ダーウィンは、「変化に対応できない生物は、生き残れない」と説くが、社会変化の急激さに泣く大学は枚挙にいとまがない。しかも文部科学省の大学政策も劇的に変更される。日体大は、十分に対応し、少子化でありながらも受験生を増加させてきた。

これらは、同窓の真摯な活躍の賜物。卒業生の皆さんの努力によって日体大が今日あると実感する日々である。さらに歴史を積み重ね、ブランド力の向上を図りたいと考える。

「からだにまつわる文化と科学の総合大学」として前進し、その存在感を揺るぎないものにして参ります。4学部8学科、2大学院研究科をもち、学生数6700名、文字どおり体育・スポーツ系大学のチャンピオンである。

慢心することなく、同窓の皆さんのご理解とご協力をいただいで努力して参ります。



日本体育大学
学長 谷釜 了正
(昭和47年卒)

日本体育大学創立125周年に想う

1891年8月11日に創立した「体育会」（翌年「日本体育会」に改称）を前身とする「学校法人日本体育大学」は、2年後の1893年3月3日に「日本体育大学」の前身「日本体育会体操練習所」を開設し、体育スポーツの指導者養成に着手、爾来、日本体育大学と共に125年の歴史と伝統を刻んで今に至っています。

この間、本学及び法人は1900年8月、日本で最初にIOC（国際オリンピック委員会）の会議（パリ）に代表者を出席させ、1906年の中間オリンピック（10周年大会、アテネ）に招待されるなど、日本のスポーツをリードする組織に成長しています。また1899年3月に本学は5カ年間に亘って文部省直轄学校として国の大きな期待を負い、翌1900年5月に各種学校（日本体育会体操学校）へ、1941年3月に日本体育専門学校へと昇格、そして戦後の1949年4月には新制大学「日本体育大学」が体育学部体育学科の単科大学として設立されます。

その後、体育学部は健康学科（1962年4月）、武道学科（1965年4月）、社会体育学科（1975年4月）を増設すると共に、大学院体育（科）学研究科に修士課程（1975年4月）と博士課程（1998年4月）を開設し、質量ともに発展していきました。その後、女子教育の受け皿として設置されていた女子短期大学は男女共学の4年制大学（児童スポーツ教育学部）へと改組され、小学校と幼稚園の教諭、及び保育士の養成に着手しています。さらにその翌年に保健医療学部がスタートし、2017年4月からは新たに「スポーツ文化学部」と大学院教育学研究科（博士前期・後期）が開設されます。

こうした矢継ぎ早の改革はさらに大学院の充実へと向かい、保健医療学研究科（仮称）の新設と体育科学研究科における「スポーツコーチング学（仮称）」の専攻の増設が計画されているところです。これは18歳人口が再び減少する問題（2018年と2020年）を意識した改革です。平昌オリンピック・パラリンピック（2018年）、ラグビーワールドカップ東京大会（2019年）および東京オリンピック・パラリンピックの追い風に乗るだけでは、創立150年への道が拓かれなと考えているためです。とはいえ、オリンピックやパラリンピックなどの世界大会に思いをはせ、そこに創立150年の夢を乗せて、邁進することが大切だと思っています。

同窓会副会長からの学生へのメッセージ

125年の年輪

本学は1891年、「たいいくふきょうのもとい體育富強之基」の産声と共に日高藤吉郎翁によって創立され、今年に至るまで125年の歳月を刻んできました。

この100年を超す歴史は決して平坦な道程ではなく、幾多の苦難と試練を経験しながら進んできたことは『学校法人日本体育会百年史』を紐解けば理解できます。

幾多先人達の血のじむご努力に心より感謝と敬意を表したいと思います。

さて、本学が発展した転換点のひとつに1964年開催の東京オリンピックがあげられます。

そして2020年の東京オリンピック・パラリンピックがさらに本学を成長させるには「何を」「どのように」進めるのか。様々な施策を駆使しなければならないと思います。時代と共に変えなければならないこと、またどんな時代になっても変えてはならないことをより分けながら前進しなければなりません。まさに「不易流行」であります。

法人理事会が提唱している学生数8000人規模の大学を目指し、さらに実技に強い日体大を構築していきたいと願っています。



具志堅 幸司
大学代表
(昭和54年卒)

若い力の協力を期待する

日本体育大学創立125周年を心からお祝い申し上げます。

1891年に創設された日本体育大学は、常に体育・スポーツ界のリーディング大学として125年の歴史を積み重ねて参りました。

今後も、日本の、いや世界の体育・スポーツのリーダーたる大学を目指し、大規模大学への計画推進を図り、益々発展していくことを願います。

また、本年度から準会員として入会いただいた学生の皆さんを心から歓迎いたします。同窓会は2016年度事業の重点として、「学生支援」「活性化推進」「県人会再生」の3つのプロジェクトを進めており、ぜひとも若い力を必要としております。4年後の卒業時には正会員として、日体ファミリーの仲間として、同窓会の活動に全国各支部の都道府県において活躍をしていただけることを期待しております。



入澤 隆
学識経験者
(昭和43年卒)

将来に向けて志高く邁進することを願う

この度、日本体育大学創立125周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。また、この125年間という長い歴史を築いてくれた先輩諸氏に心より感謝申し上げ、今後大学がますますご発展されますことをご期待申し上げます。

そして、この喜ばしい年にご入学された学生諸君、おめでとうございます。生涯心に残る入学年度となることと思います。またご入学と同時に、同窓会の準会員になられたこと、同窓会一同、心より歓迎申し上げますとともに、これからのご活躍を期待いたしております。

昨年度の学生支援センターの就職状況を参考にさせていただくと、企業就職55%、教員就職22%、公務員就職7%、進学5%、非就職9%、未定2%という結果になっており、すべての学生が思い描いた通りの進路に進めたとは限らない状況ですが、自ら選んだ選択に自信と目標を持ち、志高く邁進してほしいと思っております。

私は現在、本同窓会副会長として、企業人会を担当させていただいております。皆様のご協力を頂き、ますます同窓会を盛り上げていければと思っておりますので、よろしく願いいたします。



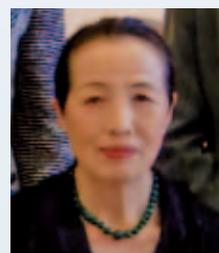
渡邊 健
企業代表
(昭和47年卒)

パワーあふれる日体魂を誇りに思う

創立125周年を祝し心よりお慶び申し上げます。輝かしい歴史の1ページに日体大にいた誇りを感じています。当時は古い教室や体育館、雨にぬかるむグラウンド、そんな学び舎で学友と共に切磋琢磨し走り抜けた青春時代は、人生の大切な宝物です。あれから50年。今、母校は世界に誇るスポーツ文化科学の殿堂として素晴らしいキャンパスに生まれ変わりました。

また、それにふさわしい体育人を育てるため、質の高い教育を目指して新学部・学科を次々と設立するなど、このパワーには質実剛健と謳い継がれる日体魂を感じます。同窓会としても大学発展のバックアップをするとともに、今年度から新入生が準会員として仲間入りしたことを喜び、歓迎をしつつ学生への支援を今以上に進めていくことが肝要と思います。

さらに独自の活動も展開するなど、同窓会の活性化を図り、女子力も生かしながら、同窓生同志をつなぐパイプ役となることで、日体ファミリーの絆を深めて参りましょう。



伊藤 延世
女子代表
(昭和42年卒)



高田 直昭
近畿・東海ブロック代表
(昭和46年卒)

学生一人ひとりを大切にできる同窓会に

創立125周年を迎えるにあたり、今日まで大学と同窓会を築き上げられた諸先輩方のご尽力に、まず敬意を表したいと思います。

この大きな節目の年にご入学された学生の皆様には、本学同窓会への準会員としてのご加入を心から歓迎いたします。少子高齢化が急速に進む現在、伝統だけに頼る大学ではいずれ崩壊・消滅の恐れがあります。本学は次々と先見性ある大学改革を断行し「夢のある日本一の総合スポーツ大学」づくりに邁進しています。君達はまさに変革の渦中にありますが、あくまで主役は君達自身です。それゆえ、しっかりと人生設計を立て、大学で知識・教養・技能等を習得し「将来の夢が実現」できるよう期待します。

故郷を遠く離れ、大規模な大学で不安や人間関係の希薄を感じているかもしれません。私達同窓会は学生一人ひとりを大切に、6800人分の1ではなく、一人ひとりが全学生とつながっているという実感を持てるよう支援したいと考えています。



土井 敏正
中国・四国ブロック代表
(昭和40年卒)

「スポーツで世界平和を」

「One Family」のスローガンの基に、近年、大学の改革が一步一步前進していることは、喜ばしいことです。

今の時代は、歩みを止めれば後退を余儀なくされる時代です。

大学が新しい感覚で、学部・学科などの改革を進めておられることは頼もしい限りです。これらを最良の形で実現させるためには、大学・保護者会・同窓会が一丸となって、強い絆を結んでいくことが必要です。

同窓会も今年度から準会員への支援を充実させることとなりました。これまで以上に積極的に在学生達との交流を深め、同窓会として何をなすべきかを考え、実践していくことが大きな課題になると思います。

スポーツを通じての世界平和を常に考え、日本体育大学だけでなく、世界中が「One Family」となるべく努力をすることが大切です。

創立125周年をビッグチャンスとして、「スポーツで世界平和を」への第一歩を皆さんと共に踏み出したいものです。



本田 和人
九州ブロック代表
(昭和46年卒)

吾等がふる里「日体大」

今年125年の歴史を刻んだ母校日体大、土浦・荏原・深沢・健志台を巣立った同窓は、日体大で学んだ「何事も前向きに、愚直に生きる逞しさ」を持って多種多様な分野・地域で活躍し、信頼を得て「日體人」として力の限り「世に先がけて獅子吼する、世紀の叫びここに聞け」を体現しています。

今春、日体大の門をくぐった1年生の皆様、不易流行の精神で積極果敢に大学の改革に取り組んでいる法人・大学・同窓会の期待に応え、「質実剛健」「団結和協」の精神と「世に先がけて獅子吼する」の魂を練磨し「日體人」として、また新たなスポーツ文化の担い手、日本のそして世界の有為なる人材として、雄飛されんことを期待します。

吾等がふる里「日体大」の前途に光あり。

★ 近畿・東

★ 中国・四国ブロック

★ 九州ブロック

★北海道ブロック

未来ある若人たちに期待したい

母校創立125周年をお祝い申し上げます。体育・スポーツ界の先駆者としての日本体育大学の長い歴史と伝統は、先人のご尽力に始まり、多くの関係者の支えのもと、全国から集まった幾多の若人が切磋琢磨することで築き上げられてきました。今、それは現役の学生や教職員に委ねられています。世界に冠たる誇り高き母校、日本体育大学のさらなるご発展と新時代を担う方々のますますのご活躍をご祈念申し上げます。

この節目の年にご入学され、同窓会準会員になられた皆さんを心から歓迎します。憧れの日本体育大学の一員として、多くの仲間とともに自己の夢の実現に日々邁進されていると思います。勉学に、スポーツに全力で打ち込み、必ずや将来の道を切り拓かれることを願っています。日本体育大学の歴史と伝統を引継ぎ、世界へ羽ばたく学生の皆さんを支援することは同窓会活動の大きな柱です。力を合わせて日本体育大学を盛り上げましょう。



上杉 正三
北海道ブロック代表
(昭和47年卒)

★東北ブロック

日体生としての誇りと気概を持って

2016年度入試に、東北地区からは259名が挑戦し、101名が合格しました。大学の新しい歴史を作るにふさわしい旺盛な意欲を持った学生たちが集まってくれたものと思っています。

同窓会の準会員となる皆さんを心から歓迎します。そして、本来、同窓会活動は学生のためであると理解し、やがては同窓会活動の主役となってほしいと思います。

母校は創立125周年を迎え、一層の充実を図り大きく飛躍しようとしています。皆さんには、この時期に巡り合った喜びと少しだけ責任を感じながら学生生活を謳歌していただきたい。

東京オリンピック・パラリンピックも近いです。皆さんには、活躍できる多くのステージが待っているはずです。このチャンスを生かし、世界をリードする体育大学づくりに力を発揮してほしいと思います。



高田 和男
東北ブロック代表
(昭和44年卒)

★関東・北信越ブロック

さらなる歴史と伝統がきざまれる未来へ

1961年春、日本体育大学に入学して、古い寮で生活しまもなく男子学生寮（600名・1964年完成）が新築され、その初代寮委員長として活動してから半世紀以上が過ぎました。

そしてここに創立125周年を迎えた母校日本体育大学は、新しい学部なども新設され誠に嬉しいかぎりであり、これからも永遠に歴史と伝統が一刻一刻ときざまれていくと確信しております。

2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、体育スポーツ界を牽引する日本一の大学として多くの選手が出場し活躍してくれることを期待しています。

うれしいことに学生さんも準会員となり、ますます同窓会も活気づいて参りました。校歌にもあるような「団結和協」「質実剛健」をモットーに、たえず輝く日本体育大学でありたいものと思っています。

最後に125周年を迎えた母校日本体育大学の関係各位の高い見識とご努力に対し、今更ながら深く敬意と感謝を表し感想といたします。



橋川 謙三
関東・北信越ブロック代表
(昭和40年卒)

伝統の重みを胸に刻み、次世

～日本体育大学 創立125周年記念式典・祝賀会～

2016年6月18日、日本体育大学東京・世田谷キャンパスのメインアリーナにて、創立125周年記念の式典と祝賀会が行われた。当日は梅雨の季節には珍しく好天に恵まれ、会場は大勢の卒業生、関係者でにぎわった。厳かな式典の後には盛大な祝賀会が行われ、参加者が125年の伝統の重さと尊さを胸に刻む日となった。



式典では、今村裕法人常務理事の開会の辞に続き、松浪健四郎法人理事長が式辞を述べました。森喜朗氏（第85・86代内閣総理大臣）をはじめとする来賓の方々への謝辞に始まり、1891年（明治24年）からの沿革に触れ、8万人を超える同窓の成果に感謝の意を示しました。また、第二次世界大戦での300人を超える戦没者に対する慰霊碑の建立にも触れ、日本体育大学の使命が「国際平和に寄与する」「全国民の健康と豊かな生活への支援」をすることであると、「スポーツ立国」を目指す日本を支える「からだにまつわる文化と科学の総合大学」として国民にどう貢献できるかが大きな役目となっていると強調されました。

来賓でもあり日本体育大学名誉博士でもある森喜朗氏からは、京都市立伏見工業高等学校ラグビー部総監督の山口良治氏を紹介しながら「スポーツ教育の素晴らしさ」や「スポーツによる人づくり」に触れ、平和でなければスポーツは発展しないこと、多くのオリンピック選手を輩出している大学だからこそできる人づくりに期待するとの祝辞をいただきました。

続いて祝辞に立った東京オリンピック・パラリンピック大臣の遠藤利明氏（当時）からは、東京オリンピック・パラリンピックの方針でもある国際貢献に触れ、1964年の東京大会時に日本体育大学の多くの学生や関係者がボランティアとして貢献してくれたことか

代への新たなスタートを切る



らも「スポーツ立国」に向けて、推進力になってほしいとお言葉をいただきました。

また、文部科学大臣の馳 浩氏（当時）の代理で来られた文部科学審議官の前川喜平氏（当時）からは、建学の精神や現在までの卒業生や在校生の偉業に触れ、体育・スポーツの振興に欠かせない指導者や選手育成に加えて、保健医療学部で養成される健康・スポーツの指導者への期待が述べられました。

引き続き、長年にわたり体育・スポーツ振興に貢献された6名の方々に日本体育大学功労スポーツマスターが授与されました。

式典終了後に会場を移し行われた祝賀会は、谷釜了正日体大学長の挨拶に始まり、「獅子の会」（学校法人

日本体育大学賛同企業親睦組織）会長の武部勤氏の乾杯で1000人以上の方々が参加され、にぎやかにスタートしました。

会場内の舞台では、学生による実演発表が行われました。卒業生の森末慎二氏と田中理恵日体大助教との絶妙な進行で盛り上がり、伝統芸能の「大田楽」・和太鼓の演技やダブルダッチ、新体操部の演技披露の後、「日体体操」の紹介などがあり、会場からは大きな拍手が送られました。最後に具志堅幸司日体大副学長の閉会の辞と三本締めがあり、参加者それぞれが125年の歴史の重みと新たなスタートを胸に刻みながら、祝賀会が終了しました。

「功労スポーツマスター」を受賞された方々



左から

- 加藤廣志氏（昭和35年卒）
バスケットボール（秋田県）
- 渡辺公二氏（昭和35年卒）
陸上競技・駅伝（兵庫県）
- 春藤英徳氏（昭和39年卒）
バレーボール（青森県）
- 山口良治氏（昭和40年卒）
ラグビー（京都府）
- 高嶋 仁氏（昭和45年卒）
硬式野球（和歌山県）
- 山口彦則氏（昭和42年卒）
体操競技（大阪府）

参加者の声

今までのオリンピック出場者の多さなど、あらためて本学の歴史と伝統を感じさせ、母校を誇りに思える式典であった。特に功労スポーツマスターの表彰は素晴らしいことで、今後も指導者の励みになると思った。

創立125周年を迎えた日本体育大学にますます期待している。具体的には、科学的な研究や施設の充実、伝統をつなぐこと。オリンピック・パラリンピックで活躍する選手やスポーツによる人材の育成。伝統文化面や世界平和への貢献である。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、今まで以上に多くの選手や指導者が出場し、メダルの獲得、そして選手や指導者へのサポートやボランティアも含めた大学全体で全面的な協力を願いたい。



リオデジャネイロオリンピック2016 日体大関係者の出場選手と成績・種目

8月6日からブラジル・リオデジャネイロで開催されましたオリンピックに出場した選手と成績をお知らせします。体操競技の男子団体の金メダル獲得などのうれしい報告や銀メダル、銅メダルの獲得、予選での惜敗などがありました。選手の前向きで精一杯の姿に多くの方が感動したのではないのでしょうか。なお、パラリンピック出場選手の成績は第6号で紹介いたします。



写真(上)は、東京・世田谷キャンパス記念講堂にて、7月3日に行われたリオ五輪壮行会の様子。

左からブルーノ・グランディ FIG 会長、瀧澤会長、トーマス・バッハ IOC 会長、ナディア・コマネチさん（Arena Olimpica do Rioにて）

種目	選手名	卒年・学年	成績
体操・体操競技	男 内村 航平	2011年卒	団体 金メダル／個人総合 金メダル／種目別 床運動5位／種目別 平行棒予選10位／種目別 あん馬予選14位／種目別 つり輪予選20位／種目別 鉄棒予選37位
	男 山室 光史	2011年卒	団体 金メダル／種目別 つり輪予選21位／種目別 あん馬予選24位／種目別 鉄棒予選33位／種目別 平行棒予選66位
	男 白井 健三	2年	団体 金メダル／種目別 跳馬 銅メダル／種目別 床運動4位
	女 村上 茉愛	2年	団体4位／個人総合 14位／種目別 床運動7位／種目別 平均台予選34位／種目別 段違い平行棒予選38位
体操・新体操	女 杉本 早裕吏	3年	団体8位
水泳・競泳	女 松本 弥生	2014年修了	400mリレー 8位／50m自由形 予選43位
	女 清水 咲子	2015年卒	400m個人メドレー 8位
	男 小関 也朱篤	2014年卒	100m平泳ぎ 6位／200m平泳ぎ 5位／400mメドレーリレー 5位
	女 高橋 美帆	院2年	400m個人メドレー 予選10位
	男 藤森 太将	院2年	200m個人メドレー 4位
	女 五十嵐 千尋	3年	200m自由形 予選17位／400m自由形 予選12位／800mリレー 8位
	水泳・水球	男 柳瀬 彰良	2013年修了
男 大川 慶悟		2012年卒	
男 角野 友紀		2013年卒	
男 竹井 昂司		2013年卒	
男 志賀 光明		2014年卒	
男 荒井 陸		2016年卒	
男 飯田 純士		2016年卒	
男 福島 丈貴		2016年卒	
男 足立 聖弥	3年		
水泳・飛込	男 坂井 丞	2015年卒	3m板飛び込み 予選22位
水泳・シンクロナイズドスイミング	女 箱山 愛香	2014年卒	チーム 銅メダル
バドミントン	男 遠藤 大由	2009年卒	ダブルス 5位
レスリング	男 井上 智裕	2010年卒	グレコローマン66kg級 5位
	男 太田 忍	2016年卒	グレコローマン59kg級 銀メダル
	男 樋口 黎	3年	フリースタイル57kg級 銀メダル
フェンシング	男 徳南 堅太	2010年卒	サーブル個人 1回戦
	女 佐藤 希望	2009年卒	エペ個人 8位

パラリンピック	選手名	卒年・学年	種目
陸上競技	男 堀内 規生	2004年卒	マラソン（道下美里選手の伴走）
	女 辻 沙絵	4年	100m／200m／400m
自転車競技	女 田中 まい	2012年卒	タンデム個人ロードタイムトライアル／タンデム個人ロードレース／タンデム1000mタイムトライアル／タンデム個人追い抜き（鹿沼由理恵選手のパイロット）
水泳・競泳	女 成田 真由美	客員研究員	50m自由形／100m自由形／100m平泳ぎ／50m背泳ぎ／400mリレー／400mメドレーリレー

※成績・種目等は、公益財団法人日本オリンピック委員会、並びに日本パラリンピック委員会 ホームページより抜粋

熊本地震について

平成28年4月16日に発生した熊本を中心とした大地震は、広い地域で余震が今もなお続いており、多くの建造物が倒壊し、被害はさらに拡大していくと懸念されています。

お亡くなりになられた方々に哀心より追悼の意を表しますとともに、被災された方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。



同窓会として何が出来るかと検討を進めて参りましたが、代議員会において、大学災害ボランティアプロジェクトの活動を支援することが承認され、支部同窓会の方々をはじめ、38・40同期

会、関東女子同窓の集いに参加された方々にもご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

皆様にご協力いただきました支援金(¥2,311,440)については、7月27日に大学へ目録を謹呈し熊本地震ボランティア活動に取り組む学生の活動のサポートに活用されます。

これまでの大学災害ボランティアプロジェクトの活動は、5月と7月に各1回、8月には2回の活動が行われました。活動内容等の詳細については、大学ホームページでも報告されていますので、併せてご覧ください。



支部同窓会活動について

日本体育大学同窓会では、各都道府県に支部があり、総会をはじめ、同窓生を対象に開催される都道府県研修会、並びに在学生を対象に開催される就職対策研修会を開催しております。

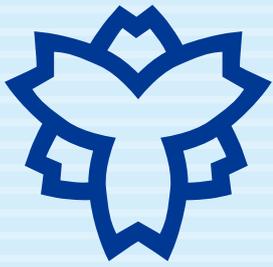
平成28年10月以降に開催される支部は右の通りです。開催に関するお問い合わせは、各支部へご連絡ください。各支部連絡先は、同窓会ホームページよりご確認ください。



QRコード：
<http://www.nittai-club.com/>

支部	総会	就職対策研修会	都道府県研修会
01 道央		12/23	
02 青森	10/16	12/29	10/16
04 岩手	12/10	1/29	12/10
05 山形		12/29	
06 宮城		12/29	12/29
07 福島		12/29	
10 群馬	1/21	2/4	1/21
11 埼玉	2/18		2/18
14 神奈川	12/3	12/10	10/8・12/3
16 富山		12/29	
18 福井	12/3		
20 長野	2/11	1/4	2/11
21 静岡		1/28	
34 広島		12/29	
35 山口		1/28	
37 徳島			1/3
38 愛媛		3/18	
40 福岡	11/26		11/19
42 長崎	12/10	2/18	12/10
43 大分			10/26
44 熊本	11/26		
46 鹿児島			10/28
47 沖縄	11/26		11/26

創立125周年慶祝イベント



燦たる母校 セレブ125周年の節目をきっかけに
母校、学生・卒業生と共に進化し続ける同窓会

日体フェスティバル2016期間開催
東京・世田谷キャンパス

平成28年度
同窓会事業の重点

Project 黎明

1

学生支援
プロジェクト

- 在学生(準会員)への支援充実
- 学生と出身地(同窓会)とのつながり強化

2

活性化推進
プロジェクト

- 母校創立125周年を記念・慶祝する事業の展開
- マーケティング講座の継承による活性化の推進

3

県人会再生
プロジェクト

- 日体フェスティバル・県人会ブースの運営(継続)
- 「ネオ県人会」の推進
*ネオneo:ギリシャ語「新しい」
英語「復活～」

全国同窓の皆さん! 「美の館」に集いましょう!

水墨画×和楽器コラボ即興ライブ

11月5日(土)13:00~14:00 記念講堂

Event

渡邊ちよと●本格的な水墨画の技法を用い、伝統と現代的感性からダイナミックかつ繊細な独自の世界を創造し続けるアーティスト。神奈川県大和市出身。

はせみきた●太鼓ソリストの第一人者・林英哲氏に師事。2011年、初の完全ソロ公演を東京にて開催。2014年、市川海老蔵自主公演「ABKAI2014」に出演。静岡県沼津市出身。

★サプライズ!!
日体大出身オリンピックも
皆さんと一緒にライブアートを
鑑賞する予定です!

山田路子●篠笛・能管奏者。能楽師一噌流笛方一噌幸弘氏に師事。日本の伝統楽器を用い、古典の技術を学びながらオリジナルの世界を追求。千葉県習志野市出身。

同窓会マネジメント研究会

11月5日(土) 14:30~17:00 日体会館



- 都道府県同窓会の現状
- ブロック討議
- 課題の共有
- 課題解決策

研鑽

18:00~



親睦

11月6日(日) 9:00~12:00 日体会館



- グループ発表
- ディスカッション
- マネジメント講義
- 総括

研鑽

都道府県の運営・研修事業等に反映

Event

★出席者は47都道府県同窓会事務局の中心を担う方々です
★6人のマーケティング専門家が研究会をサポートします

ネオ県人会：ふるさとフェア2016

11月4日(金)・5日(土)・6日(日)

※出店県：山形、神奈川、山梨、愛媛、長崎(予定)
なお、日時等についてはフェスティバル実行委員会と調整中です

- ◆コンセプト：同郷・出身地つながり創生
- ◆ターゲット：在学生・卒業生
- ◆プロセス：学生-保護者会-同窓会の関係づくり
- ◆ツール：郷土の物産品・名産品・シンボルなど

★学生も多数出店します。「日体フェスティバル2016」の多彩なプログラムとともに楽しみください
(大学のホームページ参照)

《平成27年度出店例：横浜・健志台キャンパス》



〈山形県〉
玉こんにゃく



〈山梨県〉
ほうとう



〈神奈川県〉
ホルモン焼・煮込み

*同窓会誌「日體人」第4号(P11)に掲載されました

Event

